

関東蒲生会 25年度 かわら版

発行：平成25年8月31日 関東蒲生会事務局 03-5282-7511
株式会社ヒューマンウェア内 幹事長 山下憲男

関東蒲生会25年度総会・懇親会に寄せて

関東蒲生会会長 満田泰啓

関東蒲生会会員の皆様、ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

今年も総会・懇親会で再会の季節がやって参りました。50余年継がれて参りました故郷・蒲生の絆です。大いに盛り上げていただきたく願っております。

わが国も今や大きな変革期を迎えており、世界の変化のうねり、中国の巨大化と横暴、東アジアの緊張等々の中、国力停滞からの脱出が火急の課題となっております。この期に及んでの「アベノミクス」「ねじれ国会脱出」を期に国民一人ひとりの自覚と参画により日本の再生が期待されます。何とか頑張って行きたいものです。

故郷では始良市誕生から五年目を向かえ、関東地区での「始良市ふるさと会」設立へ向けての活動が三町の役員会を中心に、始良市役所からの要請をも踏まえて進められています。

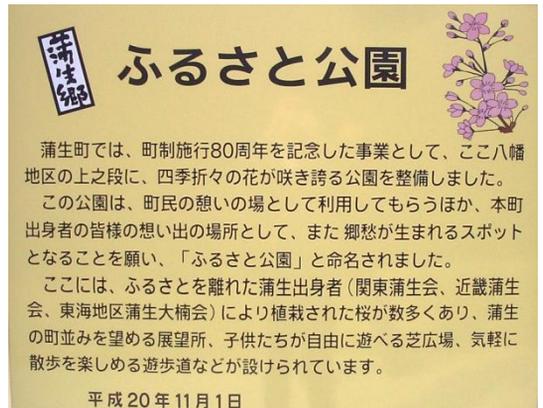
詳細は総会で報告しますが、結論は三年に一度の総会懇親会開催することとして来年(平成26年)秋の設立総会開催に向けて準備を進めております。三町のふるさと会はそのまま継続させます。

さて、今年の総会・懇親会のご案内の通り、10月20日(日曜日)です。多数の方々に参加いただき、ふるさとの絆を盛り上げたく期待いたしております。お誘い併せのうえ是非ご参加頂きます様お待ちいたしております。

関東蒲生会で設立しました「桜基金」も皆様のご支援により10年目を迎えております。

この間「故郷を想う丘」「蒲生郷ふるさと公園」をはじめ8箇所に160本の桜を植樹して参りました。

ことしは標識のない植樹箇所に「贈：関東蒲生会」の標識を建て一つの区切りと致たく考えております。引き続きご支援よろしく願いたします。



ふるさと公園

蒲生町では、町制施行80周年を記念した事業として、ここ八幡地区の上之段に、四季折々の花が咲き誇る公園を整備しました。

この公園は、町民の憩いの場として利用してもらおうほか、本町出身者の皆様の憩いの場所として、また郷愁が生まれるスポットとなることを願い、「ふるさと公園」と命名されました。

ここには、ふるさとを離れた蒲生出身者(関東蒲生会、近畿蒲生会、東海地区蒲生大楠会)により植栽された桜が数多くあり、蒲生の町並みを望める展望所、子供たちが自由に遊べる芝広場、気軽に散歩を楽しめる遊歩道などが設けられています。

平成20年11月1日

最後に、私事ながら会長を務めて10年となり、今年の総会を持って退任させていただくことに致しました。

関東蒲生会が益々発展いたしますことを祈念しながら今後も必要なときは微力ながらお手伝いできればと思っている次第でございます。

最後に会員の皆様様の益々のご健勝とご多幸を祈念いたしましてご挨拶に代えさせていただきます。



第16回渋谷・鹿児島おはら祭に初参加

関東蒲生会副会長 久富木 文子

正月気分も抜け切らない1月上旬、「突然ながら5月の渋谷おはら祭に始良市踊り連の初参加が決まり、関東3町会にも参加要請があった」と満田会長からのメール。

笹山市長の超ポジティブな行動力に乗せられて、蒲生会7人、始良町会8人の踊り手が参加することになりました。2月23日から4月14日までの4回のしごきの合同練習が待ち受けていることも知らずに！？

「初参加の連は上手な連の後に並んで真似をしなさい！」「口は動かさないで、手と足を動かすの！」「縦と横の列を揃えるの！」と、バリバリの鹿児島つま弁で。

なにしろこの4回の練習で、おはら節、渋谷音頭、ハンヤ節、TOKYOオハラの4曲を覚えなくてはならず、中でも、連によって踊りが違うというハンヤ節は、スパルタ指導者先生に恐る恐る居残り練習をお願いし、5月18日の前夜祭で始良市から上京のあいらびゅー踊り連(30名)と初の踊り合わせにこぎつけました。



5月18日の前夜祭
蒲生会のメンバー



笹山市長から、おどりのメンバーにハッピの貸与。
満田蒲生会会長

5月19日の渋谷道元坂・文化村通りの踊りパレードでは、若草色の揃いのハッピに身を包み、笹山市長を先頭に「♪踊る阿呆に見る阿呆、同じ阿呆なら踊らにヤソソソ♪」と、合計60連、2100名の一員となって13時から16時まで、雨の天気予報を晴天に変えて、無事、楽しく踊りきることが出来ました。

連と共に移動してご協力頂いた皆さん、沿道から応援して下さった皆さん、ありがとうございました。来年は、皆さんも是非「踊る阿呆」にないもんソ、鎌倉時代にさかのぼる鹿児島と渋谷の深い結びつきにも思いを馳せて！！



5月19日の渋谷道元坂・文化村通りの踊りパレード



(鹿児島と渋谷)

渋谷一帯を所領する相模国の豪族渋谷氏は、源頼朝が鎌倉幕府を開いた後、源平合戦の功により、薩摩の地、今の薩摩川内市あたりに所領を得て一族をあげて移住する。薩摩での渋谷家は五家に分かれる。土地の名を取り入院氏、祁答院氏、東郷氏、高城氏、鶴田氏を名乗る。

この東郷家から七百年後に出たのが日露戦争の日本海大海戦で大勝利をおさめた連合艦隊司令官東郷平八郎元帥。東郷元帥は勿論鹿児島生まれですが東京の東郷神社は先祖の地、渋谷に建てられています。

“蒲生は良かとこじやんど、”

関東蒲生会 副会長 小倉 收

故郷蒲生から上京して早50年、関東蒲生会で活動する中で、改めて蒲生の良さを痛感する昨今であります。日本一の大楠や鹿児島空港に近いこと、武家屋敷の多いこと、山や水流がきれいで自然に恵まれていること等、あげればきりがありません。私は幼少のころは、蒲生のさらに山間部の西浦で育ちました。

一年間を振り返ると、正月のおんびたき(おにびたき、どんどやき)に始まり、3月からは、竹の子取りやワラビ取りに、5月の節句時のあずっかんやいこがし、さらにチマキなどの美味しかったことを思い出します。6月1日からは、アユ取りをかわきりに西浦川(前の郷川の上流)で、川魚(モツゴロやアカンハイ、フナやゴムンチン、ウナギやゲギンパチ、ヤマタロガニなど)を釣ったり、取ったり、水車ぶち(西浦の川でいちばん深いところ)で泳ぐ等々、川遊びに夢中に成ったものでした。

中でも、父や兄弟でアユ取りにいて、アユ味噌(河原で、寒いので焚火をしながら、やや大きな石を焼いて、アユの内臓と味噌を混ぜて焼いたもの)の美味しかったこと。ウナギを取るために、夕方に、約1メートルの置系の先の針に餌(ミズかドジョウを輪切りにしたものやカエルなど)を付けた、付け針を仕掛けて、翌朝早く引き揚げに行き、ウナギがかかっていた時の嬉しかった思い出などは、私の脳裏に焼き付いたまま、昨日のように、思い出されます。

また、7月27日に行われる西浦の下部落の大山祇神社のろっがっどうや9月20日の15夜の綱引きなどの思い出も強く残っています。



大山祇神社(おおやまつみじんじゃ)

秋から冬にかけては、山遊び(山栗やんべ、山もも、こたつの実、桑ん実、山いちごや黄いちご、山ぶとうなどを取ったり食べたり、罌を仕掛けて鳥を取ったりなど)にふけた事を思い出します。特に、鳥を取る罌を仕掛けて、やまどりや鳩、コジュケイ、ツグミなどがかかっている時の嬉しさは、今でも忘れることはできません。

お金で買えない喜びや思い出...それは、経験や体験、実践によるものであります。私は改めて、蒲生の素晴らしさを痛感し、故郷に感謝をすると共に、人や自然には優しく、自分には厳しい人生を過ごすことが出来れば...と思っている昨今であります。

黄金蜘蛛(ヤマコッ)のはなし

関東蒲生会事務局長 北原 源平

子供の頃、紙芝居か絵本で「蜘蛛の糸」の物語を見聴きしたことがありました。大罪人の男が蜘蛛の糸をよじ登って地獄から這い上がろうとしたが、自分だけというエゴから失敗に終わる話です。そんなことから虫は殺せても蜘蛛は殺せない自分になっていました。そんな頃、黄金蜘蛛(ヤマコッ)が好きでよく喧嘩をさせるためにヤマコッ採りに行き持ち帰って飼っていました。



「加治木の蜘蛛合戦」は、有名ですが子供の遊びでもあったのです。この夏そのヤマコッが我が家の庭に住み着きました。黄色と黒の縞模様、その堂々とした姿が美しいです。子供の頃以来、ヤマコッに遭遇したのは初めてです。関東にもヤマコッがいるんですねえ。それも我が家の庭にいるとは感激しました。餌の昆虫が巣(網)に掛かるとすぐに糸でぐるぐる巻きにし、しばらくしてから巣の真ん中へ持って行きゆっくりと食らっています。土砂降りの後、見てみると壊れた巣を一生懸命作り直していました。

そんなこんなで少年のように毎日観察しております。そして来年も住み着いてくれるよう願っています。



関東蒲生会のホームページをご覧ください。

全国の各地にお住まいの蒲生出身者、蒲生に縁の方々も自由に閲覧・投稿できます。

このホームページには総会・懇親会時の写真やその他にも色々投稿されております。

ホームページ

<http://www.kamoukai.com>

メールアドレス

office@kamoukai.com